

# 2023年度 第9回 公立大学法人埼玉県立大学教育研究審議会 議事録

## 1 承認日

2023年12月4日(月)

## 2 開催方法

WEB 会議

## 3 参加者

星議長、磯田委員、伊藤委員、林委員、金村委員、常盤委員、東委員、濱口委員、田中委員、國澤委員、山崎委員、久保田委員、河村委員、廣渡委員、柳澤委員  
オブザーバー参加:田口学長補佐兼地域産学連携センター所長、延原情報センター所長

## 4 事務局

福田副局長、高柳調整幹兼総務担当部長、濱口財務担当部長、酒井施設管理担当部長、小原教務・入試担当部長、今村学生・就職支援担当部長、関根研究・地域産学連携担当部長、山口企画・情報担当部長

## 5 議事概要

### 【議事録確認】

議長から前回の議事録が提示され、内容について確認された。

### 【報告事項】

#### (1)名誉教授選考スケジュールについて

資料に基づき、福田副局長から報告された。

#### (2)2023 年度前期授業評価・学修成果アンケートの結果について

資料に基づき、東高等教育開発センター長から報告された。

○ 回答率が低いのは学生の問題だけではなく担当教員の姿勢の問題もあるのではないかと。授業の最後にアンケートの時間を5分確保するなど、回答率を上げるようしっかりと取り組んでいただきたい。科長・学科長からも指導いただくようお願いする。

○ ①学生はかなり多くのアンケートに答えなければならないこと、②年次が上がるにつれ回答率が下がること、について、なんらかの対応を考える必要がある。例えば、回答者を履修者の半分だけとしたり、ある年次の学生のみとするなどし、効率的に回答を集めるのはどうか。学科独自のアンケートも実施しており、回答する側の負担への考慮が必要である。

⇒ 以前、隔年で実施するのはどうかという話もあったが、外部評価を踏まえ毎年実施する

のが好ましいという結論となった。また、同じ科目の中で回答者を絞ったり、年によって実施する科目を分けたりすると混乱を招く可能性もあり、今のところは全科目・全履修者を対象に行うこととしたい。ただし、学生の負担が大きくなっているのは確かなので、負担を減らすための工夫について検討する。

- 履修人数が少ない科目はアンケートを取らないことを検討してみたらどうか。  
⇒ 特に大学院は人数が少なく答えづらい部分もあろうかと思うので、検討する。
  
- アンケート結果がどのように改善に使われているかが学生・外部の方に見えた方が良い。また、授業の中で、“昨年度このような指摘を受けたので今年度は改善します”と学生に伝えるのも効果がある。  
⇒ シラバスにアンケートに基づく改善点を記載する欄を設けているが、それを教員が授業で話せると良いと思う。結果の見える化はとても重要なことだと考えている。高等教育開発センターから各種情報提供として“EDC.info”を発行しているが、現在のところ教職員向けのものしか発行していない。学生対象も発行する方向で検討する。
  
- 博士後期課程のDP3つについて、それぞれ研究者・教育者・職業人と区分されてしまっている。例えば研究者になりたい学生は他の2つの到達度を低く評価する可能性があるが、どのように考えれば良いのか。  
⇒ ご指摘のとおりかと思う。現在、DPの改訂作業を進めており、併せてアンケートの内容も工夫していきたいと考えている。ただし、現カリキュラムの間は経年変化を見るために現行のままとする。